

越瓜

瓜の類也、雀瓜といふ、西國によめのごき、安房にきんぶんしきといふ、合子草なり、
〔續山の井夏〕姫瓜

姫瓜のまがきや深きまどのうち
ほそおちは獨ころびか小姫瓜

出羽山形
未覺
すて

〔本草和名〕^{十八}越瓜陶景注曰、作菹食一名春白、一名女臂、一名羊角、一名羊腕已上四名、女臂瓜、一名玉臂出七卷、和名都乃宇利、

〔本草和名〕^{十八}白瓜子蘇敬注曰、白字誤、當改爲甘一名水芝、一名瓜子、一名水芝瓜出蘇敬注一名甘瓜子出崔一名兔延白瓜瓣也、出神、和名宇利乃佐禰、

瓜蒂陶景注曰、用早青蒂也、和名爾加宇利乃保曾、

〔倭名類聚抄〕^{十七}白瓜 兼名苑云、女臂一名羊角、和名之、白瓜名也、

〔伊呂波字類抄〕^{植物附植物具}白瓜シロウリ 女臂 羊角已上

〔易林本節用集〕^{草木}越瓜

〔和爾雅〕^七越瓜稍瓜、菜瓜並同、醬瓜、頭花

〔物類稱呼〕^三越瓜しろうり 京にてあさうりといふ、一種筑紫にてつけうりといふ、有、江戸にてはなまるといふ、

菜瓜なうり 京にてあをうり、大坂にてなうり、大和にてはなまる、江戸にてまるづけ、相模にてかたうりといふ、東國にあな瓜と稱する有、別種也、

〔本朝食鑑〕^三越瓜京俗稱淺瓜

釋名羊角源順曰、女臂、一名羊角、白瓜名也、必大平野按、李時珍曰、長者至二尺許、俗呼羊角瓜、女臂、亦瓜名也、有與白瓜同種者、併號越瓜、今每種白瓜、中有青皮者、又別有一種稱醬瓜者、花號枕頭花也、